

第32回大会

日時・昭和63年8月9日、10日、11日
コース・霞ヶ関カントリー倶楽部・西コース
(男子6,682Y・パー72 女子6,316Y・パー72)

●男子の部●

- ※① 米倉 和良 (八幡西) 37・38(75) 35・37(72) 36 183
- ② 久保谷健一 (秦野曾屋) 36・39(75) 34・35(69) 40 184
- ③ 野村 保文 (平安) 37・38(75) 32・38(70) 41 186
- ※④ 横田 真一 (水城) 39・33(72) 37・36(73) 42 187
- ⑤ 平井 公義 (青山学院) 37・37(74) 38・37(75) 39 188
- ⑤ 松葉 英樹 (恵那) 38・39(77) 35・35(70) 41 188
- ⑤ 三橋 達也 (平安) 36・37(73) 40・38(78) 37 188
- ⑧ 田中 勝也 (久居) 37・39(76) 37・38(75) 38 189
- ⑨ 佐藤 貴士 (水城) 37・33(70) 39・40(79) 41 190
- ⑩ 浅野 慶一 (P L 学園) 36・35(71) 41・38(79) 41 191
- ⑩ 牧坂 考作 (大牟田南) 36・35(71) 36・41(77) 43 191
- ⑩ 小島 礼志 (瀬戸内) 36・38(74) 39・39(78) 39 191

●女子の部●

- ① 芳賀ゆきよ (藤ノ花女子高) 41・37(78) 45 123
- ② 高村 亜紀 (熊本中央女子高) 38・43(81) 44 125
- ③ 四本 章恵 (城星高) 39・41(80) 46 126
- ④ 板垣真由美 (鎮西高) 46・43(89) 40 129
- ④ 戸田 陽子 (竜華中) 44・44(88) 41 129

降りしきる雨のため最終ラウンドは9Hに短縮され、男子では4位でスタートした米倉選手が最終9番で執念のバーディーを奪い、1打差で前日までトップの久保谷選手を振り切って初優勝。女子は初日からトップの芳賀選手が逃げきりV。

第33回大会

日時・平成元年8月9日、10日、11日
コース・霞ヶ関カントリー倶楽部・西コース
(男子6,682Y・パー72 女子6,316Y・パー72)

●男子の部●

- ① 米倉 和良 (八幡西) 35・36(71) 34・37(71) 31・34(65) 207
- ② 浅野 慶一 (P L 学園) 36・36(72) 35・39(74) 35・34(69) 215
- ※③ 片山 晋呉 (水城) 35・36(71) 38・36(74) 33・38(71) 216
- ※④ 森 忍 (広陵) 36・40(76) 33・36(69) 38・36(74) 219
- ※⑤ 三橋 達也 (平安) 36・39(75) 38・37(75) 39・33(72) 222
- ⑥ 桧垣 繁正 (箕面自由) 35・39(74) 37・42(79) 36・34(70) 223
- ※⑥ 堀 信義 (愛知) 36・39(75) 40・36(76) 37・35(72) 223
- ⑥ 野村 保文 (平安) 38・35(73) 37・38(75) 38・37(75) 223
- ⑨ 渡部 光洋 (平安) 36・38(74) 37・39(76) 40・34(74) 224
- ⑨ 河井 博大 (瀬戸内) 35・40(75) 36・39(75) 37・37(74) 224

●女子の部●

- ※① 福嶋 晃子 (白鷗女子高) 36・37(73) 39・37(76) 149
- ※② 久保 樹乃 (天羽高) 38・40(78) 39・38(77) 155
- ③ 芳賀ゆきよ (藤ノ花女子高) 39・41(80) 39・38(77) 157
- ④ 高村 亜紀 (熊本中央女子高) 38・39(77) 41・40(81) 158
- ⑤ 能登 亜紀 (埼玉栄高) 38・37(75) 40・44(84) 159

世界ジュニア制覇の“怪童”米倉選手が前半アウトで31の驚異的なスコアを含む7アンダー65で回り、通算9アンダーの大会最少スコアで2連覇を達成した。女子は元大洋・福嶋氏の長女晃子選手が高校1年生で女王の座についた。

第34回大会

日時・平成2年8月8日、9日、10日
コース・霞ヶ関カントリー倶楽部・西コース
(男子6,682Y・パー72 女子6,316Y・パー72)

●男子の部●

- ① 白浜 浩高 (啓明学園) 35・37(72) 36・33(69) 141
- ② 小島 礼志 (瀬戸内) 34・35(69) 36・39(75) 144
- ③ 片山 晋呉 (水城) 38・34(72) 33・40(73) 145
- ④ 津田 猛 (大阪桐蔭) 37・37(74) 35・38(73) 147
- ④ 久田 謙 (日体荏原) 36・37(73) 39・35(74) 147
- ④ 長尾 卓 (水城) 35・34(69) 37・41(78) 147
- ⑦ 石川 康徳 (日光) 36・38(74) 38・36(74) 148
- ⑦ 南 太敦 (P L 学園) 39・34(73) 39・36(75) 148
- ⑦ 長曾 由実 (広陵) 37・36(73) 38・37(75) 148
- ⑩ 山口 知之 (川内) 36・41(77) 35・38(73) 150
- ⑩ 菊地 貴之 (学館浦安) 38・37(75) 39・36(75) 150
- ⑩ 田辺 元 (香里丘) 36・37(73) 39・38(77) 150
- ⑩ 遠間 武彦 (日体荏原) 37・36(73) 37・40(77) 150

●女子の部●

- ① 福嶋 晃子 (白鷗女子高) 37・37(74)
- ② 高村 亜紀 (熊本中央女子高) 41・34(75)
- ③ 今井ゆかり (津島女子高) 40・36(76)
- ④ 久保 樹乃 (天羽高) 38・41(79)
- ④ 大久保由嘉 (一関商工高) 40・39(79)
- ④ 芳賀ゆきよ (藤ノ花女高) 40・39(79)

台風11号による悪天候のため最終日は中止され、女子は福嶋選手が高村選手を1打抑えてV2を達成した。男子はプロゴルファー白浜育男氏の長男・浩高選手がただ一人アンダーパーをマークし栄冠をさらった。

※ 印は世界ジュニア日本代表選手